

メンタルヘルスに不調を抱える母親に対して

助産師が行う支援に関する研究



看護学科 助産・母性看護学領域 渡邊 真央 助手

Q. どのような研究をされていますか？

A. 近年、精神疾患患者の生活が施設から地域へ移行し、妊娠を希望する精神疾患患者が増加していると推測されています。実際、精神疾患合併妊娠の割合は上昇しており、精神疾患を有する母親は今後も増加していくことが予測されます。また、妊娠や出産は喜ばしい出来事である一方、家族関係や心身の変化が大きく、周産期は精神疾患が発症しやすい時期といわれています。母親のメンタルヘルス不調は、母親の自殺や児童虐待につながる重要な問題です。母親のメンタルヘルスの悪化を予防し、安心して育児ができるように支援するためには、母子を取り囲む様々な職種が連携し、切れ目なく支援することが重要です。なかでも、母子と家族のケアの専門家である助産師が、その専門性を発揮し、母親が退院後も地域で安心して育児ができるための環境づくりを探求する研究に取り組んでいます。

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. メンタルヘルスに不調を抱える母親に対する母乳育児支援には、多様な視点と高度なアセスメントが必要とされ、現場の助産師は試行錯誤しながら支援を行っています。そこで、経験豊富な熟練助産師が、どのような母乳育児支援を実践しているのかを明らかにすることで、支援に困難を抱える助産師への示唆が得られると考え、研究を行いました。熟練助産師にインタビュー調査をした結果、【母親が無理せず続けることができる母乳育児の方法を妊娠中から見極め提案する】、【向精神薬を内服しながらできる母乳育児の方法を模索する】、【児と一緒に過ごす母親のメンタルヘルスを観察し、母親の母乳育児に対する選択を尊重する】、【母親が退院後に安心して育児ができる環境を見据え、妊娠中から調整する】の4つが明らかになりました。

母乳育児を希望するメンタルヘルス不調の母親に対して熟練助産師が行う母乳育児支援	
・4つのカテゴリー、13のサブカテゴリーが生成	
1. 母親が無理せず続けることができる母乳育児の方法を妊娠中から見極め提案する	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が困ったときにいつでも頼ることができるように先回りする ・母親にとっての必要な休息と育児のバランスを取ることができているか判断する ・母乳にこだわりすぎないように妊娠中から説明する ・母親が退院後も無理せずに続けることができる母乳育児の方法を提案する ・夫婦で無理せずに行える授乳方法を提案する
2. 向精神薬を内服しながらできる母乳育児の方法を模索する	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスが悪化しないように内服を促す ・薬の安全性と児への影響を確認して伝える ・母親が内服しながら納得してできる母乳育児の方法を検討する
3. 児と一緒に過ごす母親のメンタルヘルスを観察し、母親の母乳育児に対する選択を尊重する	<ul style="list-style-type: none"> ・児が側にいることで母親のメンタルヘルスが安定するのを観察する ・母親のメンタルヘルスに不調があっても、母親の母乳育児に対する選択を尊重する
4. 母親が退院後に安心して育児ができる環境を見据え、妊娠中から調整する	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中から母親のメンタルヘルスの状況を把握し、周囲のサポートを調整する ・退院後の母親と家族の様子を早急に直接確認する ・退院後の母親と家族を継続的に支援できるように、多職種と連携する

Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. メンタルヘルスに不調を抱える母親に対して、助産師が専門性を活かして多職種と円滑に連携し、退院後も地域で切れ目なく支援ができるような「多職種連携型の育児支援モデル」の構築を目指しています。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

・助産・母性看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_bosei.html

・大学院保健医療学研究科看護学専攻 女性健康看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc00000013wl.html